LIFE LIGHT LOVE

Tohoku Gakuin Archives Center

# 東北学院史資料センター

## 展　示　録

# 東北学院史資料センター

## 東北学院の歴史を今に伝える

### 押川方義、W·E·ホーイ、D·B·シュネーダーら三校祖と先人たち

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂地階

仙台神学校時代から今日に至るまでの東北学院に関する歴史を将来に伝承するとともに、「建学の精神」に関連する資料を収集·保存·展示し、東北学院の発展に資することを目的に、2001（平成13）年5月15日（本院創立記念日）、土樋キャンパスラーハウザー記念東北学院礼拝堂地階に「東北学院資料室」が開設され、2014年4月、「東北学院史資料センター」と改称しました。

現在、本院創設の三校祖（押川方義、W·E·ホーイ、D·B·シュネーダー）に関わる資料や写真を中心とする常設展示約200点のほか、特別展示·企画展も併設して実施しております。

本展示録掲載資料と展示資料は異なる場合があります。

初代院長

おしかわ　まさよし

# 押川方義

（1850 − 1928）

松山藩士橋本家の三男として生まれ、押川家の養子となる。若くして東京、横浜に学び、西欧の新しい学問に触れ、バラやブラウンの導きのもとに1872年、洗礼を受ける。日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会を組織する。1886年、ホーイとともに仙台神学校を創設。5年後の1891年に東北学院と改称する。翌年初代院長に就任し、1901年に辞任。以後も東北学院顧問として終生関わりを持つ。

『英和漢書目』

押川直筆による個人所蔵目録

1. 英書類
   Philosophy（哲学）103点
   Literature（文学）14点
   Histories（歴史）15点
   Religion（神学）161点
   Politics,Economy,Sociology（政治学、経済学、社会学）8点
   Science,Cosmology（科学、宇宙学）13点
   Languages,Dictionaries（言語、辞書）8点
   Miscellaneous Books（雑多本）30点
2. 和書類　39点
3. 漢籍類　39点

## 押川方義と妻常子

Oshikawa Masayoshi and his wife, Tsuneko

妻常子、1912（明治45）年3月22日、66歳で逝去。

## 押川方義と孫の押川昌一

Oshikawa Masayoshi and his grandson, Syoichi

押川方義の次男清の息子昌一は、後に劇作家となり、祖父方義を主題とするいくつかの脚本をも世に送っている。2002（平成14）年12月8日逝去。

## 押川が孫の昌一に与えた遺訓

脳溢血で倒れた次の日、孫の昌一を病床近くよび、墨をすらせ伊予紙に墨痕鮮かな遺訓をしたため与えた。

「勤勉剛直神ヲ信シ国ニ尽シ精励以テ自己ノ職務ヲ遂行スルノ真勇ヲ確保スヘシ」とある。

『心の夜あけ』

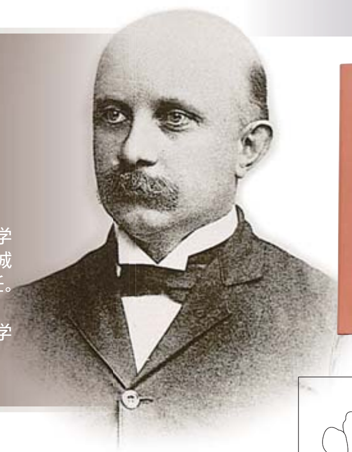
若き押川の翻稿とされる著作

初代副院長

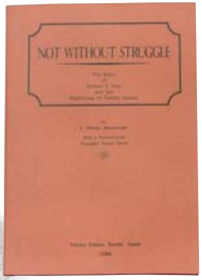
ウィリアム エドウィン

# W・E・ホーイ

（1858 – 1927）

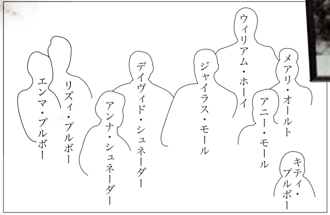


アメリカ・ドイツ改革派教会宣教師。米国ランカスター神学校卒。1885年来日し、翌年、押川らと共に仙台神学校、宮城女学校（宮城学院）を創立。1892年東北学院副院長に就任。1899年東北学院を辞し、中国湖南省で伝道を開始する。1903年フランクリン・アンド・マーシャル大学より名誉神学博士号を受ける。




## 『NOT WITHOUT STRUGGLE』

「ホーイ伝」C・W・メンセンディク著（英文版）
1986年発刊




## 在仙宣教師団

Missionaries in Sendai

東北学院と宮城学院両校の創立間もない時期の在仙宣教師団（1888年頃）

## 『The Japan Evangelist』

1893（明治26）年からホーイが編さんした米国信者向け雑誌。創刊号には、神学校設立のため、その蓄えのすべてを捧げた未亡人香味ちかの義挙を『12枚の銀貨』と題する一遍の詩にして匿名で寄稿している。

## ジョン・オールト記念館

Ault Memorial Hall

1888（明治21）年に増加する学生のため、ホーイが私財を投じて教場および寄宿舎として建築した。名前は義父の名に因んで名付けられた。

## 神学生時代のホーイ

Hoy as Seminarian

## 仙台時代のホーイと家族（1897年頃）

The Hoy Family

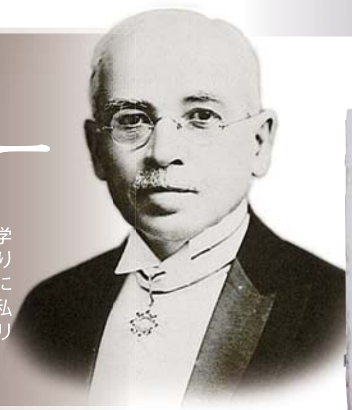
長女ガートルードは戦後宮城学院で教鞭をとった。

二代院長

デイヴィド ボウマン

# D･B･シュネーダー

（1857 – 1938）



アメリカ･ドイツ改革派教会宣教師。米国ランカスター神学校卒。1887年来日。翌年仙台に着任し、創設されたばかりの仙台神学校教授として押川、ホーイを助ける。1901年には第二代院長に就任。35年におよぶ在職中、東北学院を私塾的存在から中学部、高等学部、神学部と学制の整ったキリスト教教育機関として発展成長させた。東北学院中興の祖。

原文

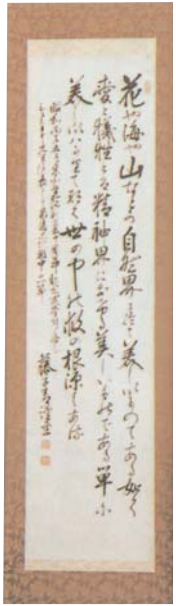
シュネーダー院長説教

「滞日50年の思い出」の一節

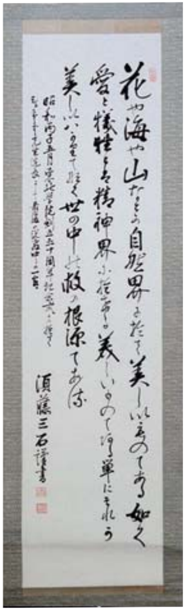
As the flowers and the trees, and the mountains and the stars are beautiful in the natural world, so are love and sacrifice beautiful in the spiritual world.

D. B. Schneder

June 11, 1934



藤 子青 書



須藤 三石 書

1936（昭和11）年5月10日、創立50周年記念礼拝においてシュネーダー院長は「我は福音を恥とせず」と題する最後の説教をNHKを通して全国放送した（キングレコード、東京ビクター会社製作レコード盤）。

院長辞任後、礼拝堂を出るシュネーダー夫妻

シュネーダーと家族

The Schneder Family

## 滞日50年を描いた絵図

滞日50年を記念して次女マーガレット･アンケニーから贈られた絵図。

シュネーダー夫妻を中心に家族や学院生、学院キャンパスなどが描かれ、また、松島海岸や菖蒲田海岸など宮城県の観光地も色鮮やかに描かれている。

# 杉山元治郎

すぎやま　もとじろう

## Sugiyama Motojiro 1885（明治18）年〜1964（昭和39）年78歳没

大阪府泉南郡北中通村（現泉佐野市）出身。大阪府立農学校在学中、大阪南教会で洗礼を受ける。同学校卒業の後、伝道を志し、1906（明治39）年東北学院神学部別科に入学。無銭伝道旅行や街頭伝道のための「クロッス協会（十字架協会）」を設立するなど、活発な伝道活動を行う。
卒業後、仙台東六番丁教会の牧師となるが、病気療養のため帰郷。快復後、シュネーダーからの誘いで福島県相馬郡小高教会の牧師となり、伝道する傍ら農業指導も行った。1922（大正11）年、賀川豊彦とともに初の全国的な農民組合である日本農民組合を結成、小作争議などの指導にあたる。その後、衆議院議員として活躍する傍ら第5代・第7代東北学院理事長をつとめ、1955（昭和30）年には衆議院副議長となる。

### クロッス協会（十字架協会）のメンバーとの写真

後列左側が杉山元治郎

### 世界連邦日本国会委員会時代の杉山元治郎

1961（昭和36）年に顧問となる

### 東北学院時代の杉山元治郎

1907（明治40）年撮影
「鬼灯画会」という絵のサークルの写真

### 落成間もない小高教会

右端が杉山

Tohoku Gakuin
Sendai

PRESIDENT'S OFFICE　　April 2, 1926

Dear Brother Sugiyama,

Since your selection as head of the new Labor-Farmer party I have often thought of you, and I can not let this day pass without writing to you. It is Good Friday today, and I am reminded of your editing years ago a little paper called "The Cross." Although I think you do not publish that paper any longer, I believe that the principle of your life is even today no other than the Cross, and it is for that reason that people trust you so sincerely. And I know that you will keep the Cross the symbol of your life to the end. Your prayer will be "Jesus, keep me near the Cross," a hymn 12. I shall often pray for you. The other day I heard much about you and your responsibility from Mr. Horiuchi. I shall pray that God may make you a blessing to many thousands of our toiling brothers. May He give you fulness of strength and faith for the great and difficult tasks before you.

Yours fraternally,
D. B. Schneder

### 手紙

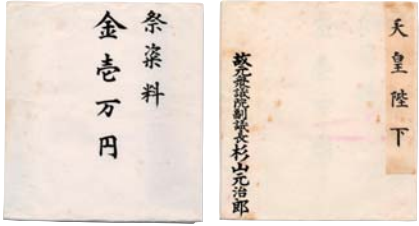
1926（大正15）年4月東北学院長シュネーダーが、愛弟子杉山元治郎が労働農民党の中央執行委員長になったとき寄せた激励の手紙。
シュネーダーは杉山が“十字架のもとに”運動に邁進することを期待している。

## 記念誌発行

# 「大正デモクラシーと東北学院 ―杉山元治郎と鈴木義男―」

東北学院創立120周年記念事業の一つとして『大正デモクラシーと東北学院』の図録を発刊した。これは二〇〇二年に刊行した『島崎藤村と東北学院』に続くものであり、本学院卒業生で理事長でもあった杉山元治郎と鈴木義男について東北学院資料室運営委員会「大正デモクラシーと東北学院」調査委員会が編さんした。

杉山元治郎と鈴木義男は、大正デモクラシーの実践的体現者として歴史的に注目すべき活動をした人物。この二人は、東北学院で学んだ建学の精神に大きく影響され、それぞれ特有の仕方で大きな社会的貢献をなした。発刊された記念誌は、A4判、293頁で、杉山元治郎と鈴木義男を囲む人物模様などが詳細に紹介されており、数多くの写真や資料で構成されている。




## 天皇陛下からの祭粢料（さいし）（一万円）

※1964（昭和39）年10月11日、78歳で逝去

## 杉山元治郎直筆の色紙

## 高校生用日本史Bの教科書

杉山元治郎の記述がある

## 衆議院からの弔詞

※1964（昭和39）年10月18日、明治学院にて葬儀

## 衆議院議員選挙の投票依頼のはがき

1936（昭和11）年2月25日の第19回総選挙で、社会大衆党から2回目の当選を果たした。

# 杉山元治郎　略歴

| | |
|---|---|
| 1885（明治18）年0歳 | 11月18日、大阪府泉南郡北中通村下瓦屋（現泉佐野市）に生まれる・父･政七、母･くま |
| 1892（明治25）年6歳 | 4月に北中通村尋常高等小学校に入学 |
| 1896（明治29）年10歳 | 4月に佐野町尋常高等小学校に入学 |
| 1900（明治33）年14歳 | 4月に大阪府立農学校農科に入学 |
| 1903（明治36）年17歳 | 3月に大阪府立農学校を卒業し、11月に和歌山県農会技手兼書記となる |
| 1905（明治38）年19歳 | 8月に和歌山県農会を退職・9月1日、東北学院入学を希望して来仙するが、4月入学のためかなわず |
| 1906（明治39）年20歳 | 4月10日、東北学院神学部別科に入学 |
| 1909（明治42）年23歳 | 3月29日、東北学院卒業・仙台東六番丁教会の牧師となる・11月、病気ため仙台を去り大阪で療養 |
| 1910（明治43）年24歳 | 7月、福島県相馬郡小高教会に牧師として赴任・9月21日、中村ことと結婚 |
| 1920（大正9）　年34歳 | 小高教会を辞して大阪へ移る・10月6日、初めて賀川豊彦と会う・10月16日、大阪市弘済院育児部主任兼舎監となる |
| 1922（大正11）年36歳 | 1月27日、「土地と自由」第一号発刊・4月9日、日本農民組合創立大会を神戸で開催し、組合長となる |
| 1924（大正13）年38歳 | 10月23日、歯科医師試験に合格 |
| 1925（大正14）年40歳 | 12月、農民労働党結成・議長となるが即日解散 |
| 1926（大正15）年40歳 | 3月5日、労働農民党結成・中央執行委員長となる（同年12月に委員長辞任） |
| 1928（昭和3）　年42歳 | 2月の衆議院議員総選挙に、大阪第五区から立候補・次点で落選 |
| 1930（昭和5）　年44歳 | 3月、大阪府中河内郡布施町に杉山歯科診療所を開く |
| 1932（昭和7）　年46歳 | 2月の第18回総選挙で衆議院議員に当選（1回目） |
| 1936（昭和11）年50歳 | 2月の第19回総選挙で衆議院議員に当選（2回目） |
| 1937（昭和12）年51歳 | 4月の第20回総選挙で衆議院議員に当選（3回目） |
| 1942（昭和17）年56歳 | 5月の第21回総選挙で衆議院議員に当選（4回目） |
| 1944（昭和19）年58歳 | 6月1日、第5代東北学院理事長に就任 |
| 1945（昭和20）年59歳 | 11月2日、日本社会党結成、顧問となる |
| 1947（昭和22）年61歳 | 5月、戦前に翼賛会の推薦を受けたとして、教職不適格者として指定される ・ 7月31日、東北学院理事長を辞任 |
| 1948（昭和23）年62歳 | 5月、公職追放該当者として指定される |
| 1950（昭和25）年64歳 | 10月13日、公職追放者指定を解除される |
| 1951（昭和26）年65歳 | 3月14日、教職不適格者指定を解除される・4月の大阪府知事選挙落選・10月の第25回総選挙で衆議院議員に当選（5回目） |
| 1953（昭和28）年67歳 | 2月、東北学院理事となる・4月の第26回総選挙で衆議院議員に当選（6回目） |
| 1955（昭和30）年69歳 | 2月の第27回総選挙で衆議院議員に当選（7回目）・3月18日、衆議院副議長となる |
| 1958（昭和33）年72歳 | 5月の第28回総選挙で衆議院議員に当選（8回目） |
| 1960（昭和35）年75歳 | 11月の第29回総選挙で衆議院議員に当選（9回目） |
| 1963（昭和38）年77歳 | 9月、第7代東北学院理事長に就任・11月の第30回衆議院議員総選挙で落選 |
| 1964（昭和39）年78歳 | 10月11日、脳出血のため死去・10月18日明治学院にて葬儀 |

「大正デモクラシーと東北学院」

# 鈴木義男（すずき よしお）

Suzuki Yoshio　1894（明治27）年～1963（昭和38）年69歳没

1907（明治40）年、東北学院普通科に入学。のちに第二高等学校一部甲類、東京帝国大学法学部法律学科へと進む。卒業後は東京帝国大学法学部助手と東京女子大学教授を兼任するが、1924（大正13）年に東北帝国大学教授となり、以降弁護士として活躍するほか、法政大学教授、専修大学教授、同大学学長･理事長、青山学院大学教授をつとめる。また、1946（昭和21）年に衆議院議員に初当選、翌年に司法大臣、23年には法務総裁を任命されている。その間も東北学院理事、第6代東北学院理事長として学院の経営にかかわるなど、多岐にわたる業績を残している。

勲一等瑞寶章を受章

東北大学教授時代の鈴木義男

（提供:東北大学史料館）

壮年期の鈴木義男

東北文学　鈴木義男が多数執筆している

## 新憲法読本

新憲法に関する鈴木義男の考えをまとめたもの。1948（昭和23）年4月出版

（提供:真田喜代次氏）

## 宇野被告治安維持法違反弁護要旨　控訴審

宇野被告:宇野弘蔵のこと。マルクス経済学者。鈴木義男とは東北帝国大学で同僚であった。
1938（昭和13）年2月、労農派教授グループとして検挙される。

## 東北学院専門部で使用したテキスト

鈴木義男は東北帝国大学教授時代、東北学院専門部で政治学担当の非常勤講師をしていた。

（提供:真田喜代次氏）

## 白河美以基督教会

鈴木義男は幼少の頃、この教会で河上洋次郎牧師より洗礼を受けた。右端の看板前にいるのは、鈴木義男の父･義一である。

（提供:鈴木義久氏）

東北学院の頃の
鈴木義男

中国旅行の時の写真

前列左がシュネーダー夫人、
後列左端が鈴木義男

直筆の色紙

創立70年記念式での
鈴木義男

鈴木義男と家族

昭和初め頃に撮影か

東北大学教授時代の鈴木義男

前列左から4人目が鈴木

前列中央鈴木

## 鈴木義男　略歴

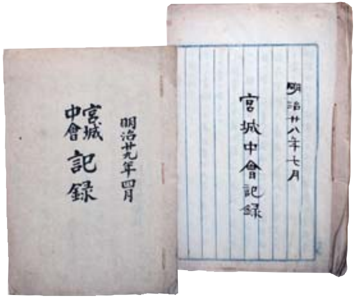
| | |
|---|---|
| 1894（明治27）年0歳 | 1月27日に、福島県白河町（現白河市）大字田町77番地で生まれる・父･義一、母･イエの6番目の子供で、三男であった（※長男は日露戦争で戦死、次男は1歳で死亡） |
| 1907（明治40）年13歳 | 3月に白河町尋常小学校を卒業し、4月に東北学院普通科（中学）に入学 |
| 1912（明治45）年18歳 | 3月に東北学院普通科を卒業し、7月に第二高等学校（一部甲類）入学 |
| 1916（大正5）　年22歳 | 7月に第二高等学校を卒業し、9月に東京帝国大学法学部法律学科（英法研究）入学 |
| 1918（大正7）　年24歳 | 5月20日、鉄本ときわ（宮城県玉造郡一栗村鉄本文吉三女）と結婚 |
| 1919（大正8）　年25歳 | 7月に東京帝国大学を卒業し、9月に東京帝国大学法学部助手に採用される（※助手は、1921（大正10）年7月29日まで） |
| 1921（大正10）年27歳 | 7月30日より文部省在外研究員として独･仏･伊･英･米に留学・8ヶ月私費延長して1924（大正13）年3月25日に帰朝 |
| 1924（大正13）年30歳 | 3月28日に東北帝国大学文学部教授に任ぜられる・4月に行政法学講座担任、5月に特別講義法学概論兼担となる |
| 1930（昭和5）　年36歳 | 4月1日に辞職願いを提出し、5月14日に認められる・5月15日に東京地方裁判所に弁護士登録・弁護士事務所は九段一口坂 |
| 1934（昭和9）　年40歳 | 4月から法政大学教授として行政法･英法を講義（※弁護士活動も継続） |
| 1940（昭和15）年46歳 | 3月に法政大学教授を辞す |
| 1945（昭和20）年51歳 | 11月に日本社会党に入党 |
| 1946（昭和21）年52歳 | 4月の総選挙で衆議院議員に福島二区から立候補し当選（1回目）・社会党中央執行委員となる |
| 1947（昭和22）年53歳 | 4月の第23回総選挙で衆議院議員に当選（2回目）・6月に片山哲内閣の司法大臣に就任また、7月には東北学院第6代理事長に就任 |
| 1948（昭和23）年54歳 | 3月10日に芦田均内閣の法務総裁（国務大臣）に就任（※司法大臣は1948（昭和23）年2月15日、「法務庁設置に伴う法令に関する法律」［昭和22年法律195号］により消滅）・10月15日に国務大臣を退官 |
| 1949（昭和24）年55歳 | 1月の第24回総選挙で衆議院議員に当選（3回目） |
| 1951（昭和26）年57歳 | 3月に専修大学教授となる（※後に専修大学学長、専修大学理事長に就任） |
| 1952（昭和27）年58歳 | 10月の第25回総選挙で衆議院議員に当選（4回目） |
| 1953（昭和28）年59歳 | 4月の第26回総選挙で衆議院議員に当選（5回目） |
| 1954（昭和29）年60歳 | 1月に同志社大学より法学博士の学位を授与される |
| 1955（昭和30）年61歳 | 2月の第27回総選挙で衆議院議員に当選（6回目） |
| 1958（昭和33）年64歳 | 4月の第28回総選挙で落選 |
| 1959（昭和34）年65歳 | 4月より青山学院大学教授となる（行政法学を講義） |
| 1960（昭和35）年66歳 | 1月に民社党の結党に参加・10月の第29回総選挙で衆議院議員に当選（7回目） |
| 1962（昭和37）年68歳 | 11月に青山学院大学構内にて講義を終えた後倒れ、慶應病院入院 |
| 1963（昭和38）年69歳 | 8月25日午前11時29分、聖路加病院にて死去・8月31日に青山学院大学礼拝堂において葬儀 |

鈴木義男伝記刊行会編『鈴木義男』
（1964年12月）より

# 東北学院の歴史と展示資料

## “東北を日本のスコットランドに” 校祖の思いを…

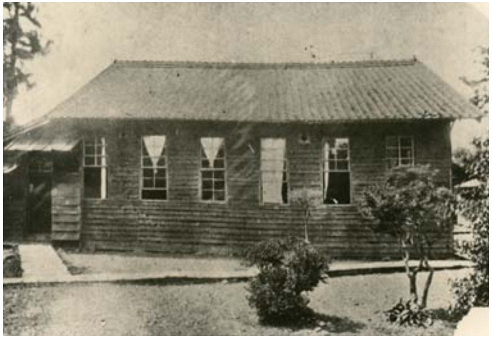
1885（明治18）年、東北地方で熱心に伝道活動をしていた押川方義は、米国・ドイツ改革派教会から日本に派遣されたW.E.ホーイと出会い、翌1886年には古い借家に私塾を設立。集まったわずか6人の伝道者志望の学生とともに、仙台を本拠地とした日本人の手による本格的なキリスト教伝道者養成に力を注ぎました。これが、東北学院の前身「仙台神学校」です。1891年に校名を「東北学院」と改称し、初代院長には押川、副院長にはホーイが就任。
1901年にはD.B.シュネーダーが第二代院長に就任し、学制も整えられ、ここに東北学院の基礎が築かれました。



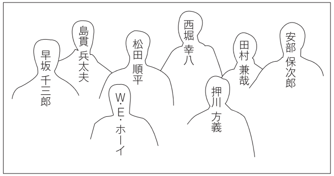

### 宮城中会記録

1885（明治18）年、押川を議長として仙台、古川、石巻、岩沼の四教会をもって中会が組織され全国的な組織の「日本基督一致教会」に加入した。東北学院には貴重な中会記録が多数保存されている。

※中会とは…複数の教会の長老、牧師たちによって構成される教会会議



木町通りにあった最初の教場




仙台神学校の二人の教師と六人の生徒（推察）

## 仙台神学校

1891（明治24）年完成。当時日本でもめずらしい本格的欧風建築様式を取り入れていた。

## 「敬神愛人」の書

1892（明治25）年に行われた東北学院開院式の際、本科4年生が記念に掲げた書。巌谷修氏の揮毫による。

校舎玄関

1945（昭和20）年の仙台大空襲後、焼け跡から発掘された仙台神学校の礎石

## 東北学院神学部卒業証書第一号

橋本経光は押川方義の実兄で、後に、白石教会牧師となる。

## 労働会

1892（明治25）年、押川方義を慕って全国から集まる青年らのために、働きながら学ぶ労働会を設立

会員名簿と日誌

『労働会雑誌』

労働会機関誌

『東北文学』

1893（明治26）年創刊の学内文芸誌。その中には岩野泡鳴や島崎藤村の名もみられる。

## 「労働会」で働く生徒たち

左から「牛乳配達」・「みそ・しょうゆ売り」・「新聞配達」・「卵売り」ポストカードとしても使われていた。

『若菜集』

島崎藤村最初の詩集。詩想は仙台で煉られたものである。藤村は明治29年から翌30年までの約1年間、東北学院の英語と作文の教師として教鞭をとった。

# 特別展示
# 一條家関係資料

一條家関係資料は、2015年10月に卒業生の一條哲彦氏（1945年9月高等商業部卒業）のご遺族から寄贈されました。この資料には、一條氏が在籍していた「滑空（グライダー）部」の活動を伝える貴重な写真などがあります。

## 木製滑空機による訓練の風景

滑空訓練は合宿形式で、現在の栗原市瀬峰地区で行われたと考えられる。太平洋戦争もすでに始まっており、生徒たちは将来的に航空機の操縦士になるよう嘱望されていた。このような訓練の様子を写した写真類が数多く残されている。

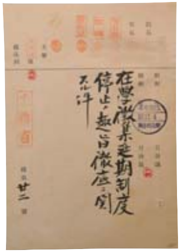
## 『滑空日本歴史写真輯』
（1943年発行）

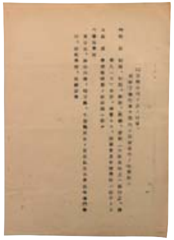
1930年代から『航空時代』という雑誌を発行していた渡部一英によって監修されたもの。多数の写真を用いたグラビア誌というべきものであり、さまざまな滑空機を紹介し、または全国の滑空大会の様子を伝えるなど戦前期の日本滑空史の集大成ともいうべき一冊。

# 学徒出陣関連資料　史資料センター所蔵『主務省関係文書類綴』より

本センターには、昭和5年から昭和24年までの文部省を中心とする各省庁からの文書をまとめた簿冊『主務省関係文書類綴』が計29巻分残っています。特別展では、簿冊の中から、学徒出陣が行われるにあたって文部省が諸学校にどのような指示を出していたのかがうかがえる資料を展示しました。

学徒出陣壮行会





## 出陣学徒壮行会開催ニ関スル件

（昭和18年10月15日付）

10月21日に明治神宮外苑競技場にて行われた出陣学徒壮行会に関する文書。壮行会に参加しない学校は、文書に記載されたプログラム（写真下段中央および左）を参考に、学校ごとに出陣壮行会を行うよう指示している。

## 在学徴集延期制度停止ノ趣旨徹底ニ関スル件

（昭和18年10月30日付）

徴集（徴兵）延期制度停止の趣旨を学生に徹底させるよう学校に指示した文書。「理工系学生が徴兵対象外なのは専要員（技術者）の確保上必要なためであり、決して法文系学生を軽視しているわけではない」という旨の説明がなされている。

# 東北学院の主な沿革

| | |
|---|---|
| 1886(明治19)年 | 押川方義とW･E･ホーイ両氏の協力により、キリスト教伝道者養成の目的をもって仙台市木町通りに6人の生徒による『仙台神学校』を開校 |
| 1891(明治24)年 | 校名を「東北学院」と改称する・予科2年、本科4年、神学部3年に学制変更し、近代教育機関としての形態が定まる |
| 1892(明治25)年 | 初代院長に押川方義、副院長にW･E･ホーイ就任 |
| 1901(明治34)年 | D･B･シュネーダー院長就任 |
| 1918(大正7) 年 | 専門部を改組し、神学科、文科、師範科、商科とする |
| 1936(昭和11)年 | 創立50周年記念式典を挙行・D･B･シュネーダー、院長を辞任 |
| 1944(昭和19)年 | 航空工業専門学校を設置 |
| 1946(昭和21)年 | 英文科、経済科を含む東北学院専門学校を開設 |
| 1947(昭和22)年 | 新制中学校を設置 |
| 1948(昭和23)年 | 新制高等学校、同二部を設置 |
| 1949(昭和24)年 | 専門学校を、教育基本法･学校教育法に基づき大学に昇格し、文経学部を設置 |
| 1951(昭和26)年 | 「学校法人東北学院」を設置 |
| 1959(昭和34)年 | 大学に文経学部二部設置・高等学校榴ケ岡校舎を開設 |
| 1962(昭和37)年 | 大学工学部を多賀城市に新設・同校地内に幼稚園開設 |
| 1964(昭和39)年 | 大学文経学部を文学部と経済学部に、文経学部二部を文学部二部と経済学部二部に分離・大学院文学研究科を設置 |
| 1965(昭和40)年 | 大学法学部と大学院経済学研究科を設置 |
| 1966(昭和41)年 | 大学院工学研究科を設置 |
| 1972(昭和47)年 | 高等学校榴ケ岡校舎を榴ケ岡高等学校として分離独立 |
| 1975(昭和50)年 | 大学院法学研究科を設置 |
| 1983(昭和58)年 | 高等学校二部閉校 |
| 1985(昭和60)年 | 幼稚園園舎を新築し移転 |
| 1986(昭和61)年 | 創立100周年記念式典を挙行 |
| 1988(昭和63)年 | 泉キャンパス開校、教養部を移転 |
| 1989(平成元) 年 | 大学教養学部を泉キャンパスに新設 |
| 1994(平成6) 年 | 大学院人間情報学研究科を設置 |
| 1997(平成9) 年 | 大学院文学研究科にヨーロッパ文化史専攻(修士課程)とアジア文化史専攻(修士課程)を増設 |
| 1999(平成11)年 | 大学設置50周年記念式典を挙行・大学院文学研究科ヨーロッパ文化史専攻(博士課程)、アジア文化史専攻(博士課程)を設置 |
| 2000(平成12)年 | 文学部英文学科、経済学部経済学科と商学科に昼夜開講制を導入･文学部二部英文学科と経済学部二部経済学科は募集停止 |
| 2001(平成13)年 | 文学部基督教学科をキリスト教学科に、経済学部商学科を経営学科に、教養学部教養学科言語科学専攻を言語文化専攻に改称・東北学院資料室開設 |
| 2002(平成14)年 | 工学部機械工学科を機械創成工学科に、電気工学科を電気情報工学科に、応用物理学科を物理情報工学科に、土木工学科を環境土木工学科にそれぞれ改称・大学院経済学研究科に経営学専攻を設置 |
| 2003(平成15)年 | 東北学院同窓会設立100周年記念行事を実施・大学院に法務研究科法実務専攻(法科大学院)を設置 |
| 2005(平成17)年 | 文学部史学科を歴史学科に改称・教養学部人間科学専攻を人間科学科に、言語文化専攻を言語文化学科に、情報科学専攻を情報科学科に改称し、新たに地域構想学科を設置・中学校･高等学校を宮城野区小鶴新田に新築し移転 |
| 2006(平成18)年 | 創立120周年記念式典を挙行 |
| 2007(平成19)年 | 中学校･高等学校新寄宿舎完成 |
| 2008(平成20)年 | 榴ケ岡高等学校体育館および管理棟完成 |
| 2009(平成21)年 | 経済学部経営学科を経営学部に昇格、経済学部に共生社会経済学科を新設・大学院経営学研究科(修士課程)を設置<br>東北学院大学博物館オープン |
| 2010(平成22)年 | 「東北学院」発祥の地に記念碑建立 |
| 2011(平成23)年 | 文学部に総合人文学科を新設、キリスト教学科は募集停止 |
| 2014(平成26)年 | 大学院法務研究科法実務専攻(法科大学院)の学生募集を停止<br>東北学院資料室を東北学院史資料センターに改称 |

東北学院史資料センターは、広く一般の方々にも開放しております。


学校法人 東北学院

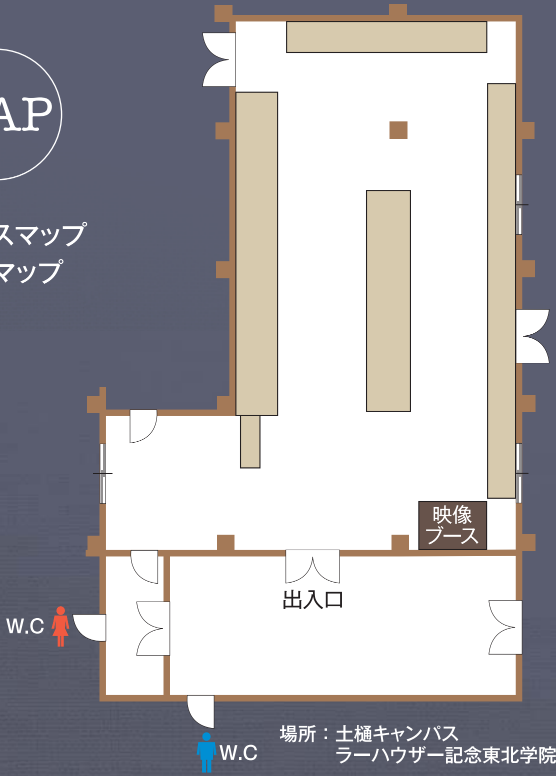
**TEL.022-264-6538　FAX.022-264-6478**

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1
E-mail:koho@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
URL:http://www.tohoku-gakuin.jp


# MAP

アクセスマップ
室内マップ

※駐車場がございませんので、お車での来校はご遠慮ください。




場所：土樋キャンパス
ラーハウザー記念東北学院礼拝堂地階

# INFORMATION

**開室時間**　**月～金 9:00～17:00**

**土・日・祝祭日、および大学の定める休業日はお休みいたします。**

※団体でご見学の場合は事前にご連絡ください。